

日中国交正常化 45 周年記念事業

日中医学交流会議 2018 北京の件

1. 日 時：平成 30 年 1 月 11 日（木）
2. 場 所：北京市（中国）
3. 主 催：日中医学協会、中華医学会（中国医師会）、中国疾病対策予防センター
共 催：日本医師会、日本歯科医師会
4. 出 席：横倉会長、松原副会長

随 行：能登国際課長

5. 内 容：

標記交流会議が 1 月 11 日、「生活習慣病：日中における現状と対策－国家レベルとしての取組み」をテーマに北京で開催され、横倉会長が日本医師会長、世界医師会長として出席し、挨拶を行った。参加者は、日中両国の専門家を含め約 240 名であった。

会議の冒頭、中国医師会の馬曉偉（マー・シャオウェイ）会長は挨拶で、生活習慣病の予防と治療における漢方と西洋医学の融合について述べた。そして、論語の「徳は孤ならず、必ず隣あり」に言及した習近平主席の演説における一文「日中両国民が真に誠実に友好的で、徳をもって隣人と接するならば、必ずや子々孫々続く友好を実現できる。両国民は勤勉、善良で、知恵に富んでいる。両国の平和、友好、協力は人心の向かうところ、大勢の赴くところである」を紹介し、医療分野においても両国の友情、友好をさらに育み、高次元の幅広い踏み込んだ交流を図っていきたいとした。

横倉会長は、高齢社会における生活習慣病患者の若年層も含めた増加傾向は、医療費の増大にもつながっていることから、予防と治療は世界レベルでの協力体制を進めてゆくべき急務であるとした。その上で、世界医師会では「持続可能な開発目標（SDGs）」の実践と「健康の社会的決定要因（SDH）」のアプローチから、各国の医療制度の強化に向け、WHO との協力・連携を図っているとした。

会期中に、横倉会長、松原副会長は、日中医学協会の高久史麿会長、小川秀興理事長と共に、中国医師会馬会長他役員と面談を行い、両国の医療分野における交流をさらに深めていくことで合意を得た。

当交流会議における成果として、「日中両国専門家の共同による生活習慣病に取り組む北京宣言」が採択された。

日中国交正常化 45 周年記念事業

日中医学交流会議 2018 北京

2018 年 1 月 11 日

挨拶

横倉 義武

日本医師会長、世界医師会長

「日中医学交流会議 2018 年北京」の開催にあたり、日本医師会、世界医師会を代表いたしまして、一言ご挨拶させていただきます。

今回の交流会議は、日中国交正常化 45 周年記念事業の一環として開催され、日本と中国の医療分野における学术交流のいっそうの発展に期待が寄せられております。

日本医師会は日中医学協会の協力を得て、これまでに日本国内で定期的に日中医学交流会議を共催し、新型インフルエンザ、環境因子と疾病、認知症など時宜にかなった重要な問題をテーマとして取り上げてまいりました。そして、これらのテーマを巡って日中両国の専門家が講演と討論を行い、現状についての情報交換と将来に向けての対策を議論する貴重な場としてまいりました。

今回は、「生活習慣病：日中における現状と対策」をテーマとしておりますが、これも世界各国が直面する極めて深刻な問題のひとつであります。高齢化の進む社会の中で生活習慣病患者は若年層も含め増加の一步をたどっており、これが医療費の増大にもつながっていることを考えれば、この疾患の予防と治療は世界レベルでの協力体制で進めてゆくべき急務であります。

日本では、糖尿病患者さんの急速な増加が予測されることから、2005 年に日本医師会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会の三者で「日本糖尿病対策推進会議」を設立いたしました。この会議にはその後、各保険組織、日本腎臓学会や日本眼科学会等の学術団体、日本歯科医師会、日本看護協会、日本薬剤師会や日本栄養士会等の職能団体等が参加し、幅広い活動に取り組んでいます。さらに、各都道府県にも推進会議が設置され、また、健康寿命の延伸、明るい長寿社会を作り上げる目的で、医療界、経済界、各自治体が協力して「日本健康会議」を 2015 年に立ち上げるなど、生活習慣病予防の国民運動を展開しています。

私は、昨年 10 月に開催された世界医師会シカゴ総会において、第 68 代世界医師会長に就任いたしました。世界医師会長在任中には、国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げたわが国の医療制度やそのノウハウを広く世界に発信していきたいとの思いを強くしております。世界医師会では、急速に拡大している非感染性疾患 NCDs の有病率とその健康、社会的および経済的影響を懸念しており、地域、国家、グローバルレベルでの分野・部門を超えた対応の重要性を認識しております。そして、「持続可能な開発目標」SDGs の実践と「健康の社会的決定要因 (SDH)」のアプローチから、NCDs の予防と管理への

対応を加速するためには医療制度の強化が必要であり、その点を重要課題のひとつとして掲げた WHO の行動計画に沿って、WHO との協力・連携を図っているところです。

この会議では、日中の指導者的立場にある医学専門家を一堂に会して、生活習慣病という難題にどのように対処してゆくかをぜひ根本から議論いただき、確かな指針をお示しいただければ幸いです。

今回の交流会議が日中の医学交流をますます高めるのみならず、日中国交正常化 45 周年の節目の年に両国の文化交流をいっそう推進する機会となることを切に祈念いたします。

本日は誠におめでとうございます。

日中国交正常化 45 周年・日中平和友好条約締結 40 周年記念事業 日中医学交流会議 2018 北京（概要）

日 時：2018 年 1 月 11 日（木）

会 場：中国・北京市（人衛酒店 北京市朝陽区潘家園南里 19 号）

主 催：中華医学会、公益財団法人日中医学協会、中国疾病預防控制中心

共 催：公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会

後 援：厚生労働省 在中国日本国大使館 中国国家衛生和計画生育委員会

日本医学会 日本歯科医学会 日本薬剤師会 日本看護協会

日本製薬工業協会 日本医療機器産業連合会

記念式典 8：30～10：10（1 時間 40 分）

司 会：饒 克勤 中華医学会副会長兼秘書長

開会宣言：小川秀興 日中医学協会理事長 5 分

挨拶：馬 曉偉 中華医学会会長 10 分

高久史麿 日中医学協会会長 10 分

祝 辞：四方敬之 在中国日本国大使館臨時代理大使 10 分

横倉義武 日本医師会長 世界医師会長 10 分

基調講演：高 福 中華医学会副会長、中国疾病預防控制中心主任、中国科学院院士

講演会：主 題—生活習慣病：日中における現状と対策（次頁に内容）

10：20～17：30（昼食を挟み 4 時間 40 分）

司 会：日比紀文 日中医学協会業務執行理事

吳 静 中国疾病預防控制中心慢病社区处处长

レセプション 18：00～20：00（2 時間）

司 会：顧 法明 中華医学会副秘書長

新井 一 日中医学協会業務執行理事

挨拶：饒 克勤 中華医学会副会長兼秘書長

安達 勇 日中医学協会副会長

祝 辞：横倉義武 日本医師会長 世界医師会長

住友雅人 日本歯科医学会会長

乾 杯：跡見 裕 日中医学協会業務執行理事（乾杯発声）

閉 会：20：00

基調講演 9:40～10:10

演者：高 福先生（中華医学会副会長、中国疾病預防控制中心主任、中国科学院院士）
——中国における生活習慣病の現状と対策

講演会：司会 10分、演者 35分、座長・質疑 10分

主 題—生活習慣病：日中における現状と対策……国家レベルとしての取組み

10：20～司会：日比紀文 日中医学協会業務執行理事

吳 静 中国疾病預防控制中心慢病社区处处长

●講演 1 糖尿病 10：30～12：00

座長：春日雅人先生（国立国際医療研究センター名誉理事長）

郭 立新先生（北京医院内分泌科教授）

演者：門脇 孝先生（東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授）

郭 曉蕙先生（北京大学第一医院内分泌科教授）

●講演 2 動脈硬化症

1) 冠動脈疾患 13：00～14：30

座長：小室一成先生（東京大学、日本循環器学会代表理事）

葛 均波先生（復旦大学附属中山医院心内科主任、中国科学院 院士）

演者：小川久雄先生（国立循環器病研究センター理事長）

蔣 立新先生（中国医学科学院阜外医院 院長助理）

2) 脳血管障害 14：30～16：00

座長：小川 彰先生（岩手医科大学理事長）

王 碩先生（首都医科大学附属北京天壇医院神経外科教授）

演者：飯原弘二先生（九州大学大学院医学研究院脳神経外科教授）

王 運傑先生（中国医科大学第一附属医院神経外科教授）

●講演 3 認知症 16：00～17：30

座長：荒井秀典先生（国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター長）

崔 麗英先生（北京協和医院神経内科教授）

演者：鳥羽研二先生（国立長寿医療研究センター理事長）

——日本における認知症の国家戦略

賈 建平先生（首都医科大学宣武医院神経内科教授）

日中国交正常化 45 周年・日中平和友好条約締結 40 周年記念事業

日中医学交流会議 2018 北京

2018 年 1 月 11 日

日中両国専門家の共同による生活習慣病に取り組む北京宣言

1. 生活習慣病は日中両国国民の健康を著しく脅かし、すでに社会・経済の発展に影響を及ぼす重大な公衆衛生上の問題となっている。日中両国の専門家の協力により、生活習慣病の予防とコントロールを促進する。
2. 生活習慣病の予防と治療は、予防を第一とし、予防と治療の連携を図ることを原則とする。絶えず公衆衛生上の政策措置を整備し、同時に生活習慣病の基礎と臨床に関する研究を強化する。
3. すべての政策の中に“健康”を盛り込み、政府による主導を堅持し、多部門間の協力を強化し、公衆衛生機関ならびに関連する学会がその役割を積極的に果たす。
4. 生活習慣病のサーベランスシステムを整備し、その結果に基づいた早期介入を実施し、ハイリスクグループの発症リスクを低減させ、更には実施した対策の有効性を評価する。
5. 生活習慣病の発症・進展には生活習慣が深く関与しており、生活習慣病に関する健康教育を実施し、その結果を健康促進に役立てる。
6. 積極的に人口の高齢化の問題に取り組み、健康な高齢化社会の実現に向けた国家戦略を制定・実施する。
7. 日中両国の専門家の意思疎通と交流を強化し、長期的かつ効果的な協力体制を構築し、その成果を共有する。